

# 平成元年度から平成 16 年度までの運動部活動状況調査」集計と分析

## 1 ねらい

本研究部が毎年実施している「運動部活動状況調査」は今年度で 17 年の経過を見た。全道 11 支部から 17 年間集めたデータは貴重な資料として残っているが、これまでは 1 年ごとに集計をおこない各支部へ状況を報告するにとどまっている。

そこで、この膨大なデータを集計し分析することによって過去の状況から現在までの推移を把握し、今後の運動部活動の活性化に生かせないかと考えた。

昨年度は、全道生徒数、運動部活動生徒数及び加入率の推移を集計しグラフ化を行った。そこで今年度は上記の分析を行い、種目別部員数、男女別部員数の集計と分析を行った。また、あわせて各支部の生徒数、運動部活動生徒数及び加入率の集計と分析を実施した。

## 2 分析結果

### ◎全道データ（昨年度紀要に掲載）の分析

#### ○全道生徒数・運動部活動生徒数と運動部活動加入率比較（平成元年～16 年）の分析

- ・生徒数のピークは平成 2 年度、部員数のピークは平成 5 年度。
- ・総生徒数は毎年減少、また部員数は平成 6 年度頃より減少している。しかし、平成 13 年度からは横ばい傾向。一方、加入率に目を向けると少し波はあるが、最近 4 年ぐらいは上昇傾向。各支部、各学校での部活動の存続、部員の確保への努力の結果と考えている。また、本研究部の発行した「ハンドブック」も少なからず影響していると思っている。
- ・ちなみに平成 17 年度の部員数は前年度に比べ約 2,000 人の減少、加入率も減少している。
- ・今後益々の部活動活性化への取り組みの強化が求められている。

#### ○高体連種目男女部員数の変遷（部員数上位 15 種目）

- ・このデータは種目ごとの変遷を表している。そして色々な要素の影響を考えてみた。例えば、サッカーでは J リーグ開幕、テレビアニメ、ワールドカップの影響が顕著に出ており、バスケットボールでもテレビアニメの影響がかなり大きく、最近のテニスブームもテレビアニメが大きく関わっているようである。卓球においては注目選手の出現が影響している。ただ大きな傾向として、団体競技種目は減少傾向、個人競技種目は微増傾向を示している。

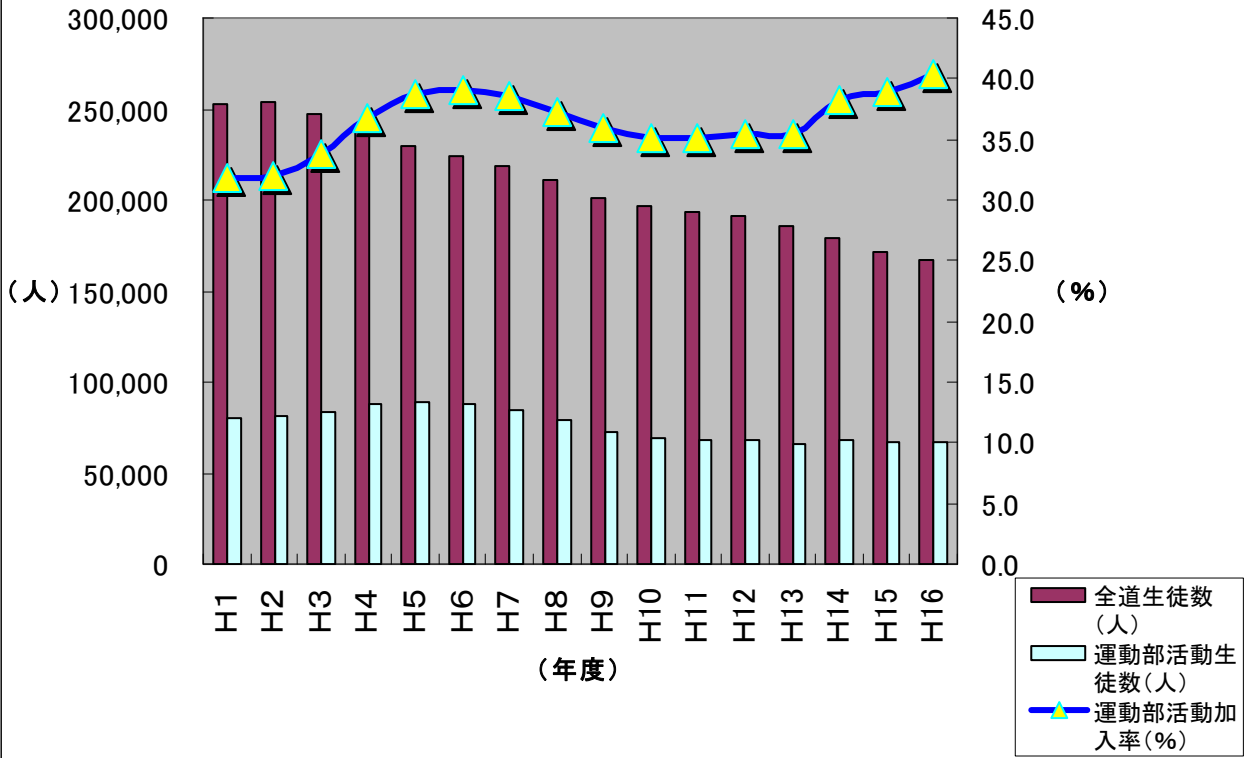
#### ○高体連種目男女部員の変遷（部員数上位 10 種目）

- ・男女共通の傾向はほとんど種目で部員数は減少している。但し、テニス（ソフトテニスも含め）、バドミントン、卓球などの微増傾向は期待できる。陸上競技の減少は心配要素。
- ・男女別で見ると、男子ではバレーボールの減少、女子ではソフトボールの減少傾向が止まらないことも心配要素である。
- ・最近 3 年間はテニス・ソフトテニス・バドミントン・女子バレーボールなどで増加傾向を示しており活性化に期待が持てる。

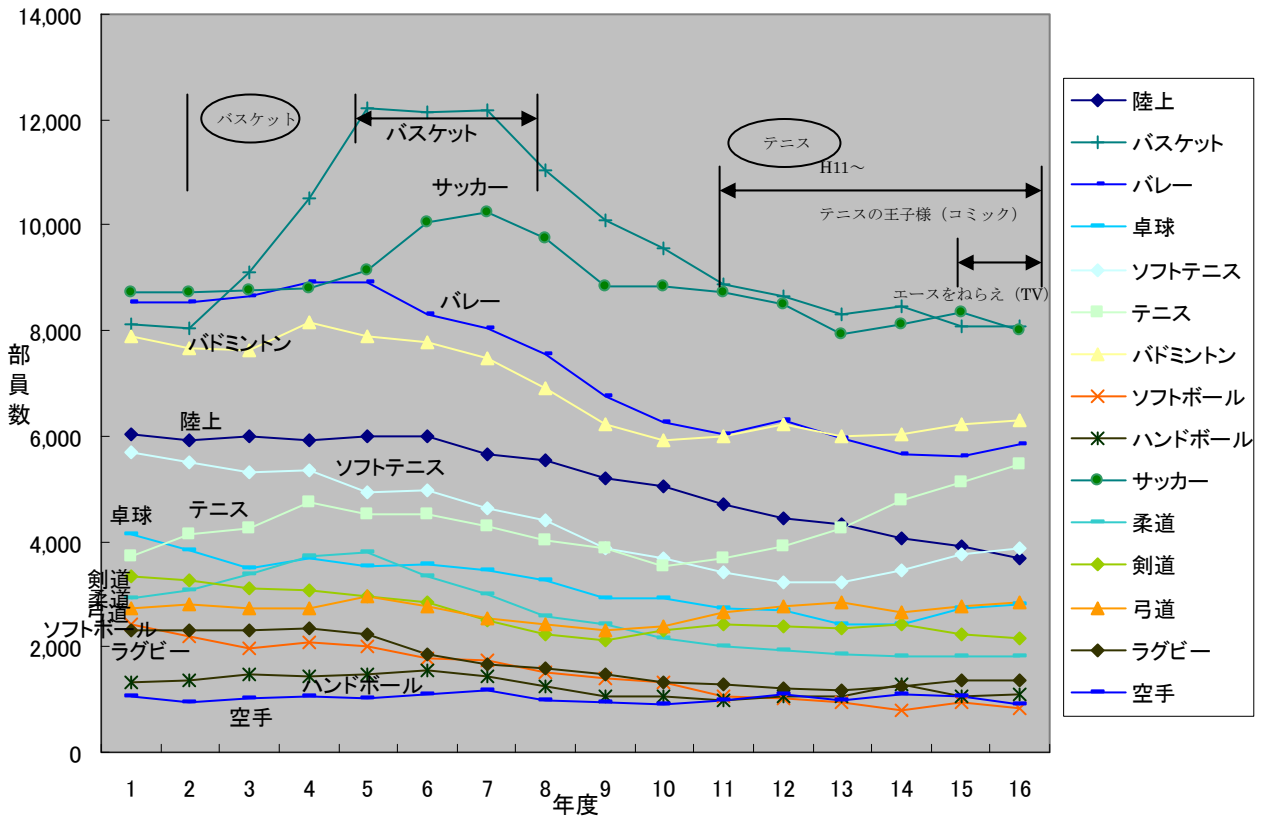
#### ○その他の種目での傾向

- ・スキー・レスリング・ボクシングでの部員数が激減している。
- ・道内での野球部所属生徒がサッカー部所属生徒を上回ったという新聞記事については、今年度の資料でサッカー部所属の生徒が約 6,900 名、野球部は軟式を含めると約 7,200 名となり逆転現象が確認された。

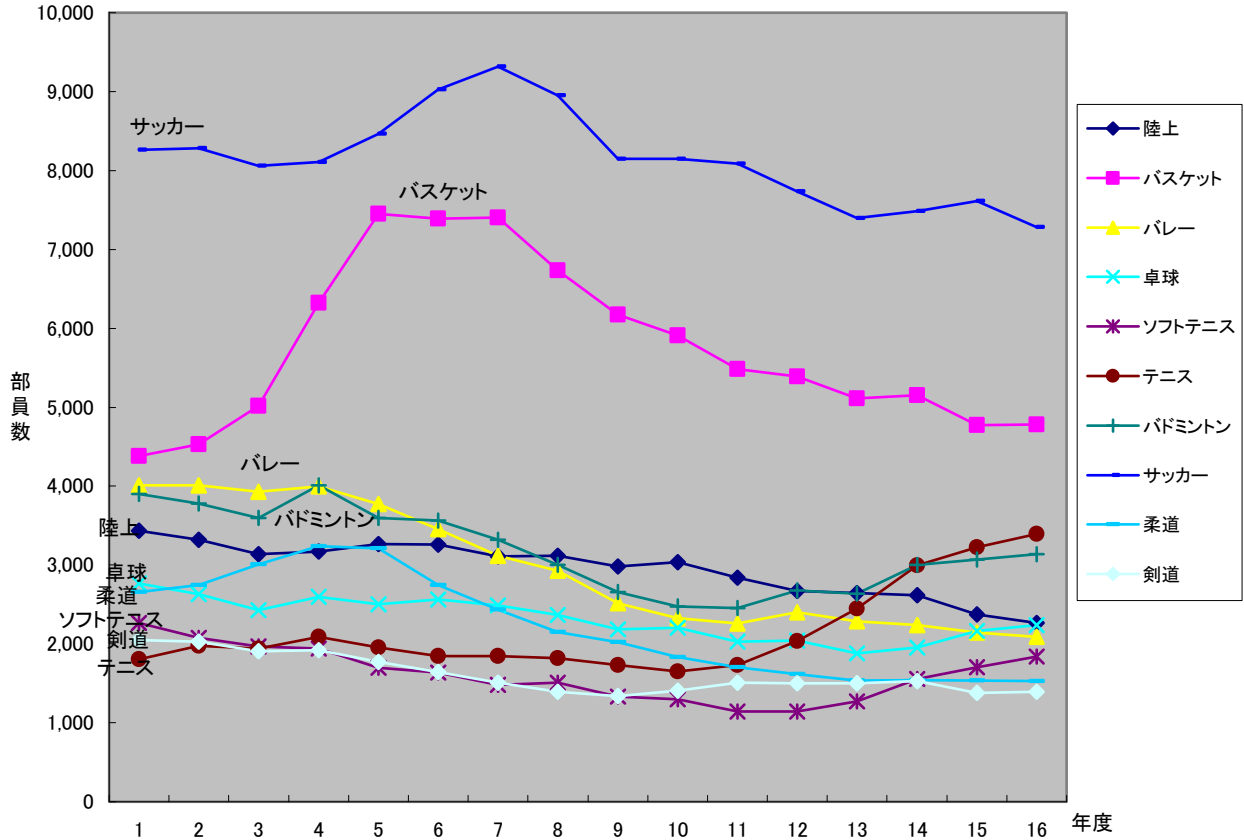
全道生徒数・運動部活動生徒数と運動部活動加入率比較  
(平成元年～16年)



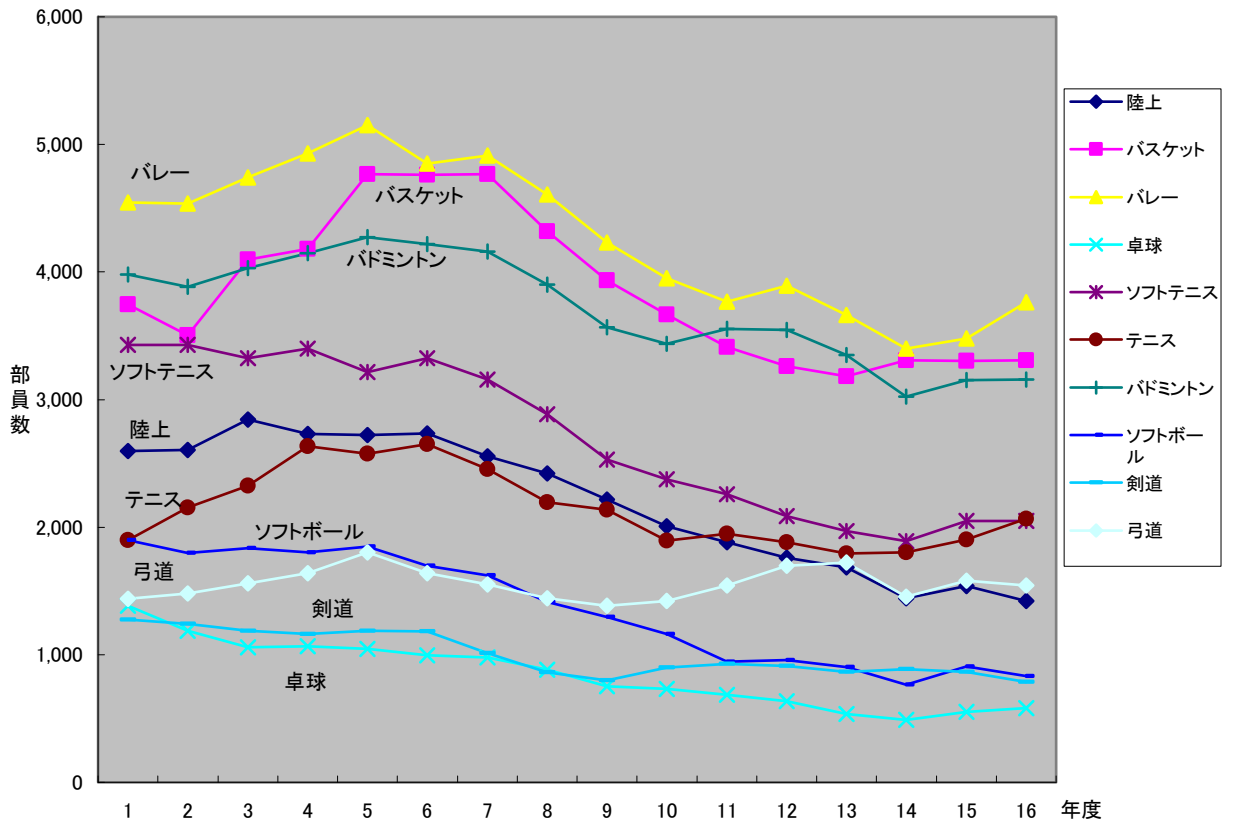
高体連種目男女部員数の変遷(部員数上位15種目)



高体連種目男子部員数の変遷(部員数上位10種目)



高体連種目女子部員数の変遷(部員数上位10種目)

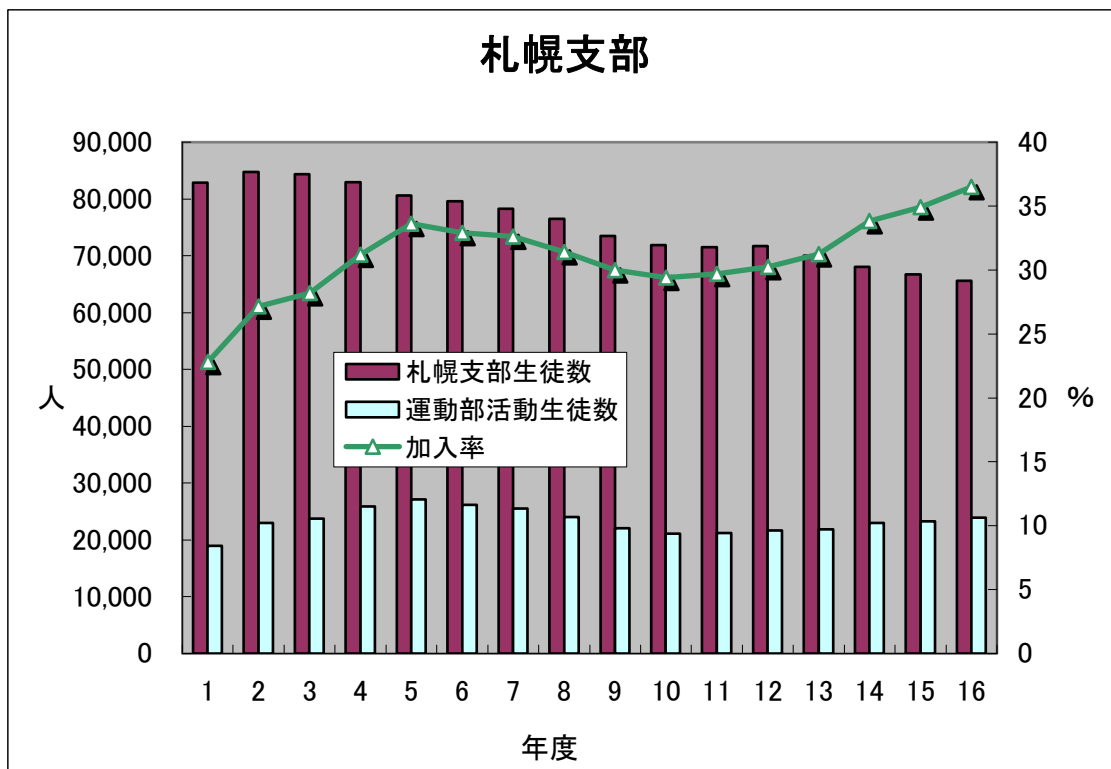


◎各支部の生徒数・運動部活動生徒数と運動部活動加入率比較（平成元年～16年）の分析

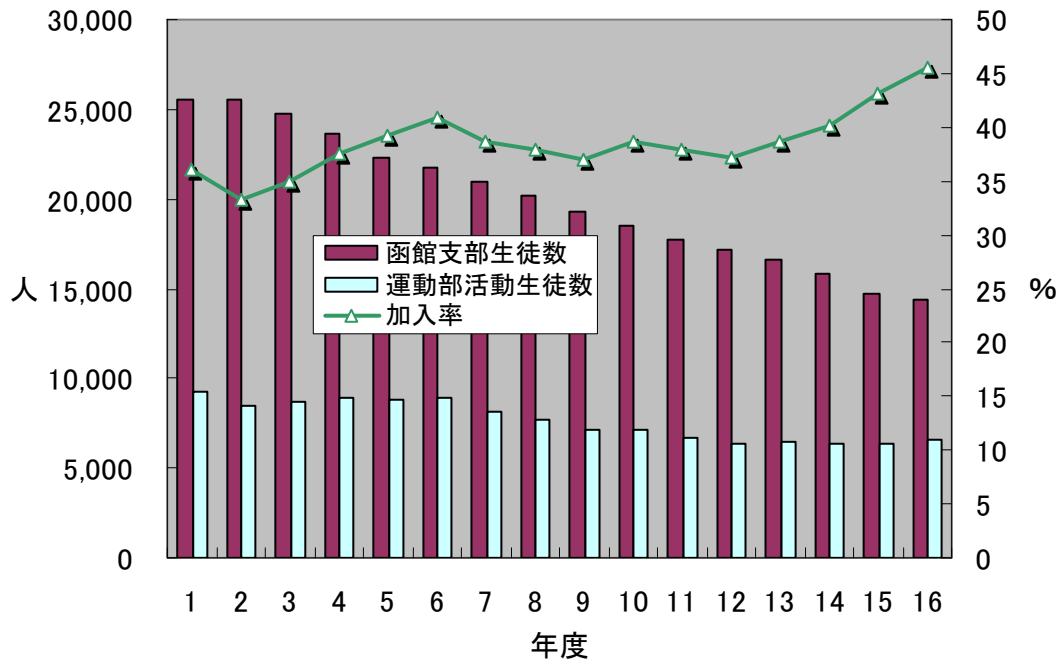
○全道 11 支部のデータからは次のようなことがわかる。

- ・各支部とも同じような傾向を示している。具体的には、生徒数は年々減少、部活動加入生徒数は最近 5 年間ほどは横ばい状態。加入率は平成 10 年度頃より上昇傾向にある。
- ・加入率については札幌・旭川支部は 30% 台ではあるが、他支部は 40% を超えており、特に名寄・北見支部は 50% を超える高い加入率を示している。旭川支部の加入率はそれほど高くないが、グラフの中では全体的に上昇傾向を示し加入生徒数の維持に貢献している。
- ・南北空知支部は、特に生徒数の減少が著しく部活動の存続にも危機的な傾向が見られるが、加入率の上昇で部活動加入生徒は維持されている。
- ・各支部における運動部活動の活性化への取り組みが、競技力向上を含めた北海道高体連の発展に繋がっていくことが大いに期待されるデータである。

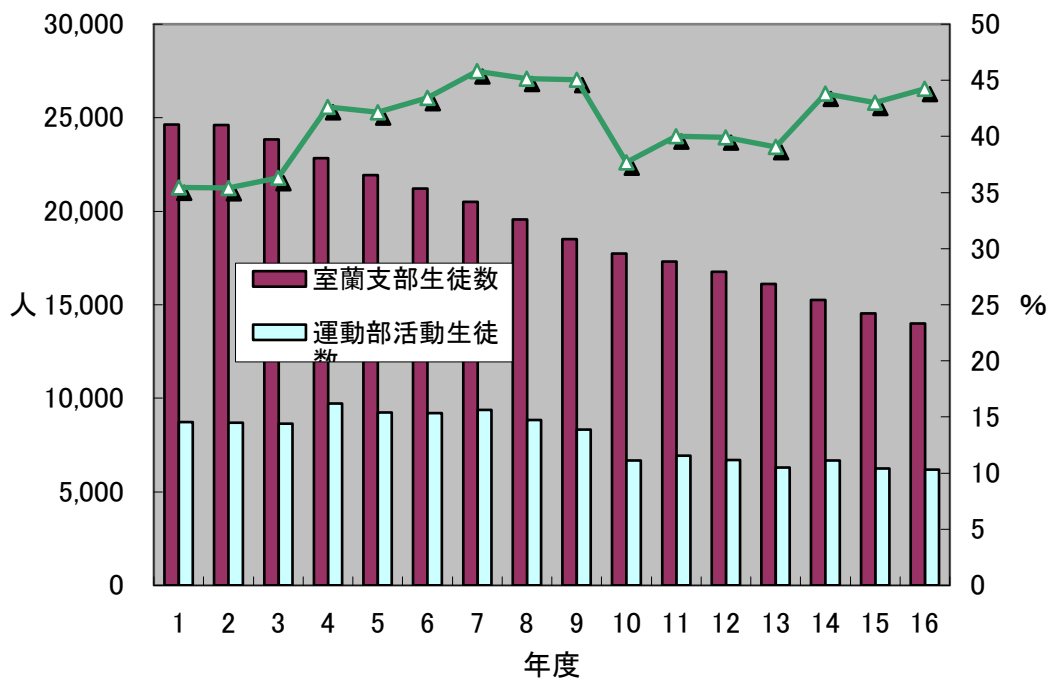
【各支部のデータ集計グラフ】



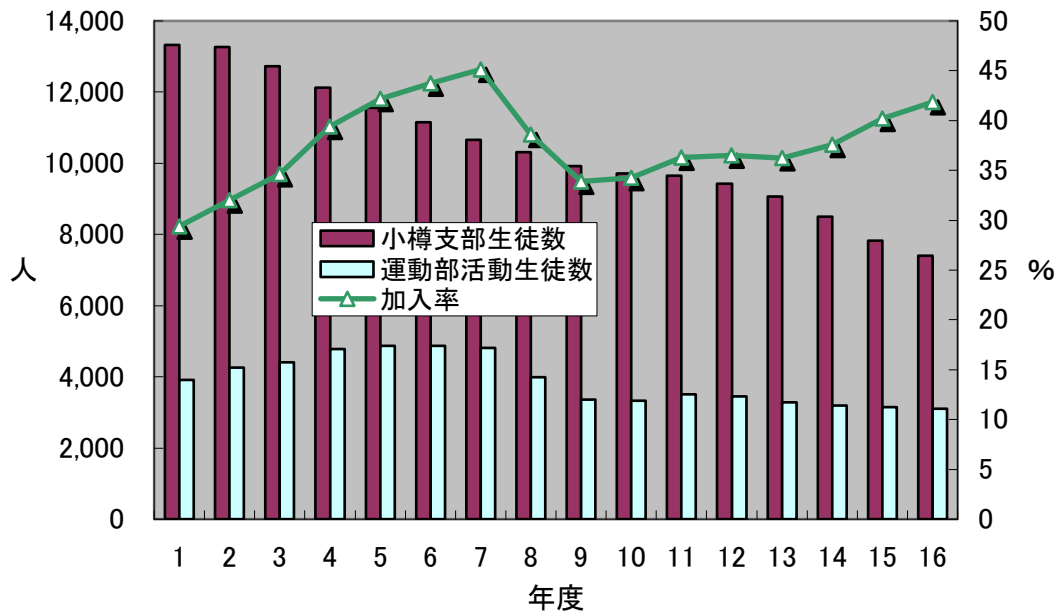
### 函館支部



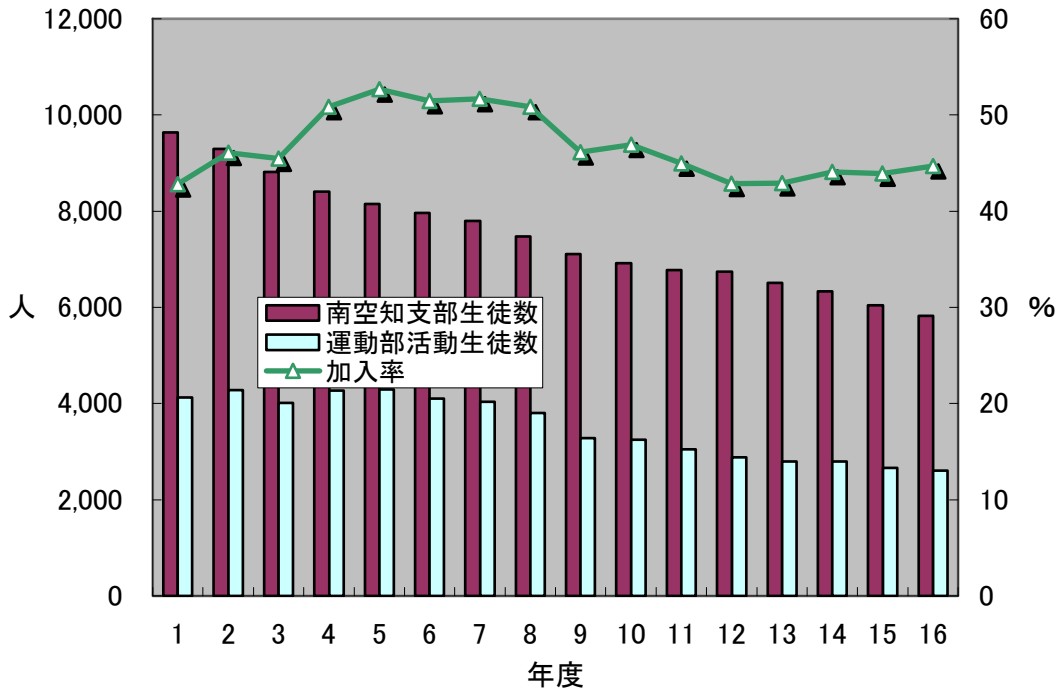
### 室蘭支部



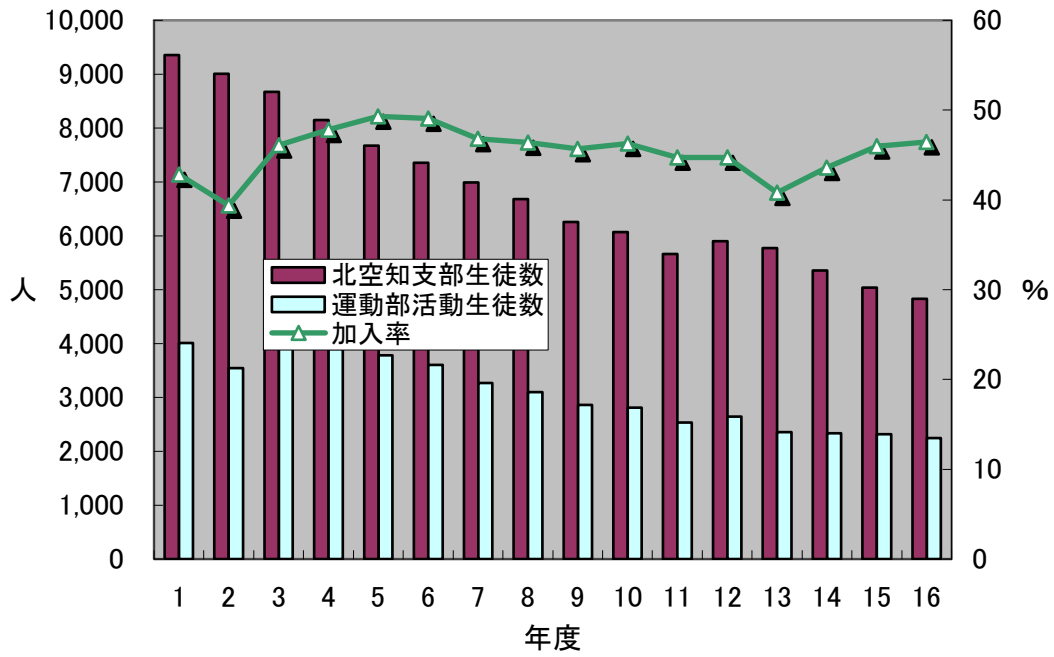
### 小樽支部



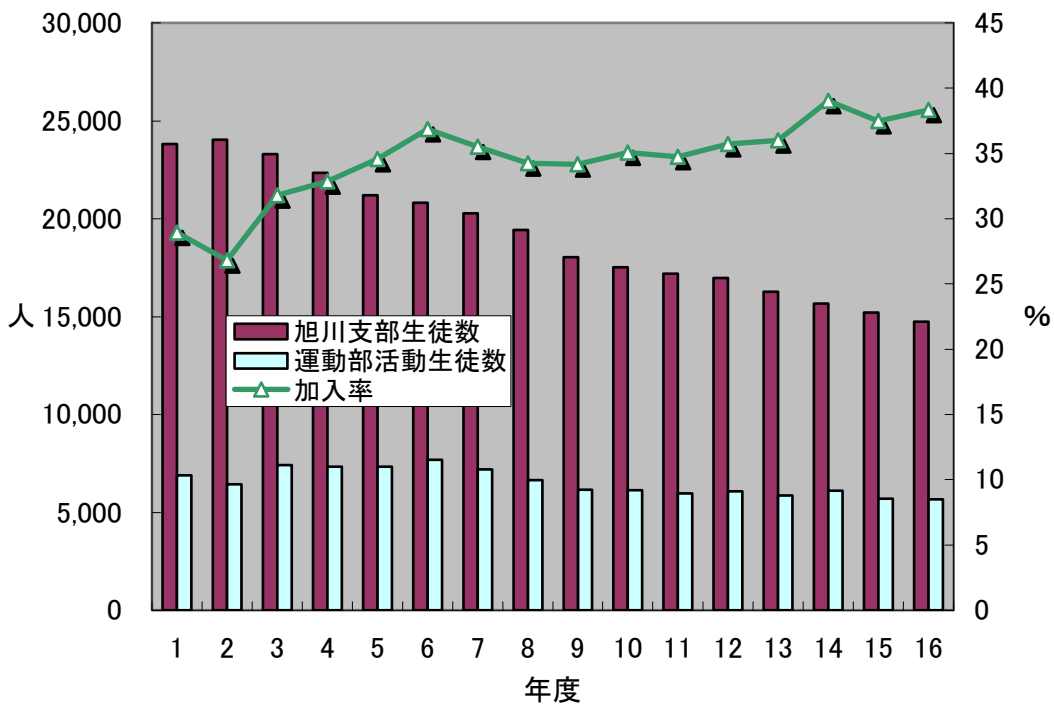
### 南空知支部



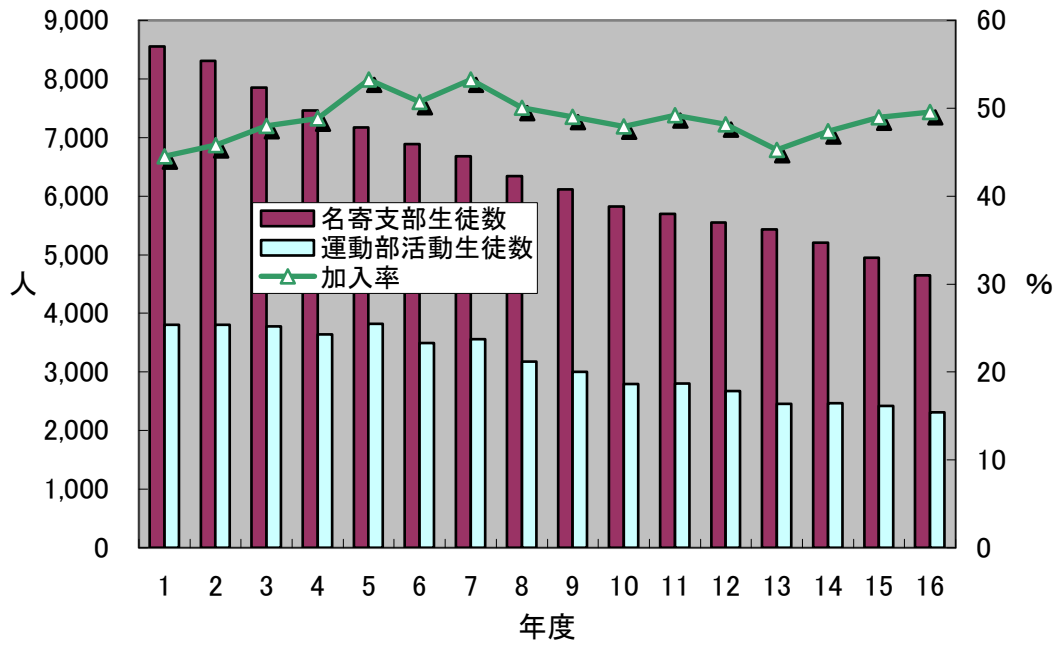
### 北空知支部



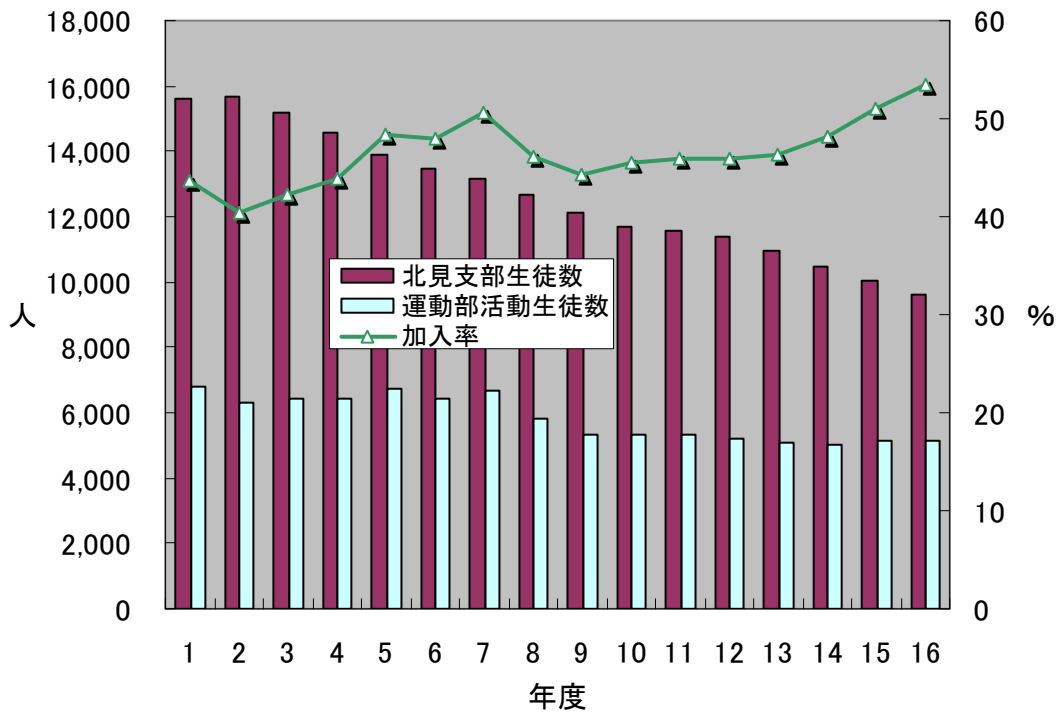
### 旭川支部



### 名寄支部

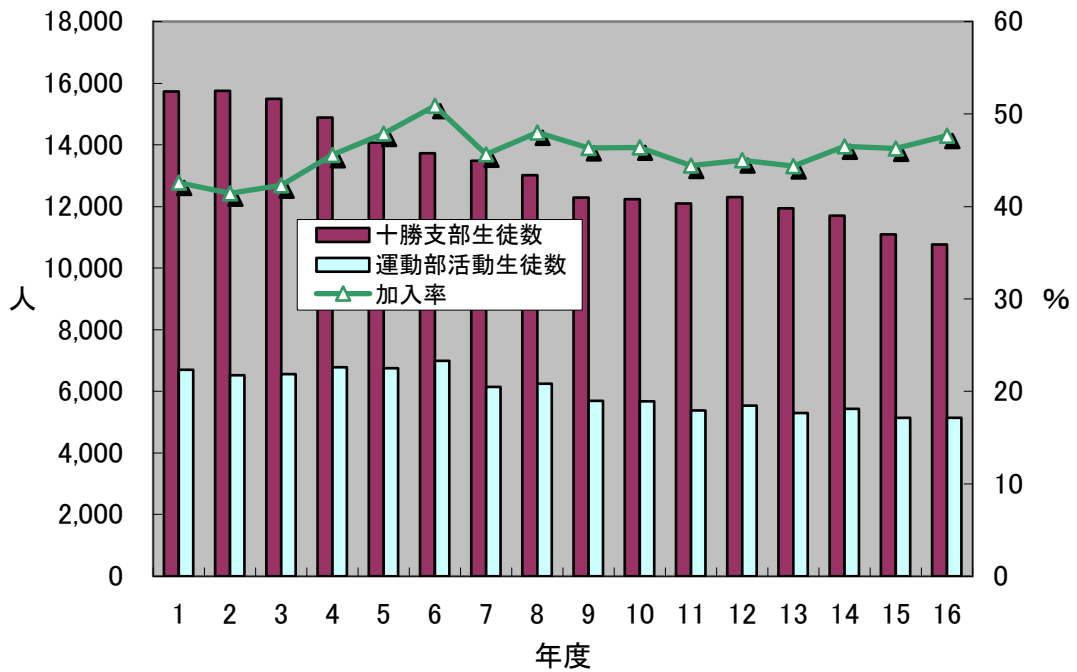


### 北見支部

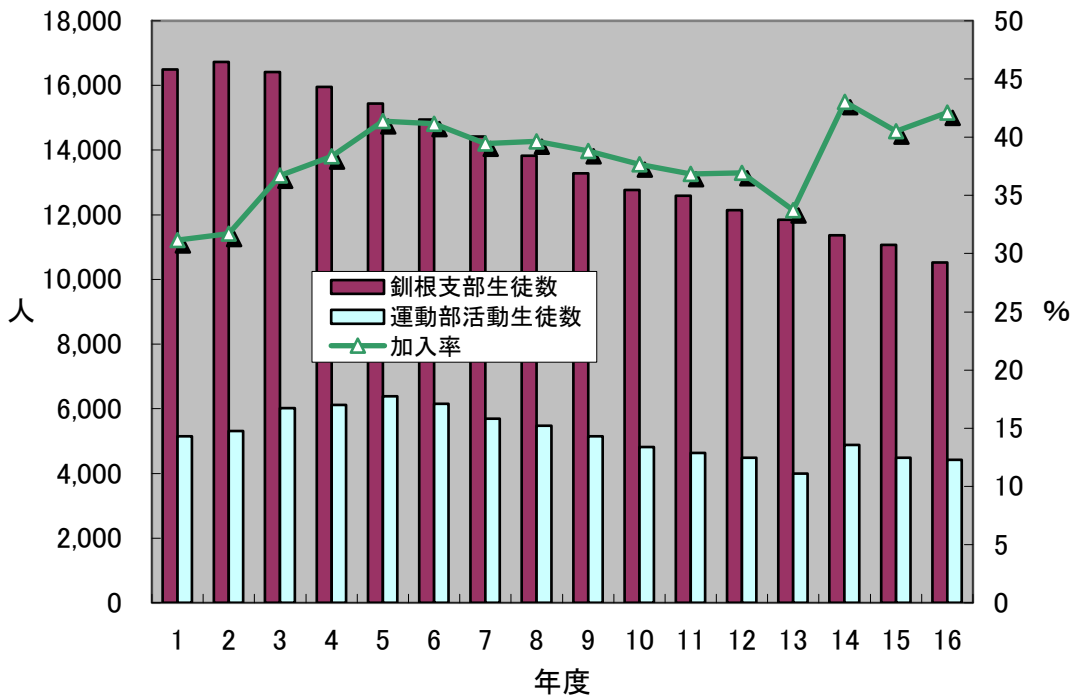




### 十勝支部



### 釧根支部



### 3 今後の展望と課題

今回、このように平成元年度からのデータを分析し感じたことは、年々進む生徒数の減少にも関わらず各支部、各種目で部活動加入者確保の努力を進めた結果、現在の高体連各大会が維持できているものと考えられる。しかし、生徒数の減少は今後も進み、各支部・各種目での生徒数の維持は、年々厳しくなり、各種目の支部大会の実施にも影響が出てくることも考えられる。

幸い、いくつかの種目では加入生徒の増加傾向が見られている。また、各支部では合同チームの結成などの対策を立て、各種目で活性化を目指している。研究部としても、今後大幅な生徒の増加は見込めない中、運動部活動の活性化のために様々な対策を立てていかなければならない。

今回の集計結果を各支部で検討して、各種目専門部や中学校との連携も含め、運動部活動の活性化を推進させていくことが急務であり、その手助けが本研究部の任務であると自覚している。

今後もこの「運動部活動状況調査」を継続して各支部の状況の把握に努め、研究部活動を進めて行く予定である。そのためには各支部や専門部・各学校からの貴重な意見も今後の課題解決の参考となるのでお寄せいただきたい。

最後にこのデータの集計に当たり、協力を頂いた各支部研究委員の方々へお礼を申し上げ、今回の分析とする。